

第2期富谷市教育振興基本計画 第2回策定委員会

日 時 令和4年7月28日(木) 午後3時～午後4時44分

場 所 富谷市役所 3階305会議室

出席者 委員長 吉村 敏之 副委員長 高橋 知美

委員 大場 由美 委員 日諸 喜代子 委員 富田 智子

委員 木村 一也

欠席者 委員 金田 裕子

事務局 富谷市教育委員会教育長 及川 芳彦 教育次長 三浦 敏

教育部長 相澤 美和 学校教育課長 今野 善徳

生涯学習課長 菊地 宏修 教育総務課長 千葉 正俊

教育総務課長補佐 坂爪 道子 教育総務課主幹 高橋 凡子

次 第

1 開 会

2 挨拶 富谷市教育振興基本計画策定委員会 委員長 吉村 敏之
富谷市教育委員会 教育長 及川 芳彦

3 協 議

(1) 現行事業状況調査の結果報告について

(2) 中長期的な動向を踏まえた課題、教育の方向性の検討について

4 報 告

(1) アンケート調査票について

5 その他

6 閉 会

【相澤部長】

それでは、定刻の時間少し前ではございますが、皆さまお揃いでございますので始めさせていただきますと思います。ただいまより、第2期富谷市教育振興基本計画第2回策定委員会を開会致します。開会にあたりまして策定委員会、吉村敏之委員長よりご挨拶を頂戴いたします。

【吉村委員長】

今日は、お暑いところお集まりいただきましてありがとうございます。いよいよ、こちらの教育振興計画の検討ということで新たな富谷市の方向性を見出していくという非常に重要な仕事なので皆さまのお知恵をお借りできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【相澤部長】

よろしく申し上げます。続きまして、教育委員会、及川教育長よりご挨拶を申し上げます。

【及川教育長】

委員の皆さま、第2期富谷市教育振興基本計画、第2回の策定委員会のご案内を差し上げましたところ、本当に日中のお忙しい中、そして暑い中、さらには感染が再拡大といたしますか、かなりの勢いで広がっている中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。富谷市でも記録的な感染者を出しまして心配しているところでございます。

本日、第2回目、第1回目からタイトなスケジュールでの2回目でございますが、後ほど事務局のほうから説明がございしますが、次回第3回に向けて方向性の説明がございします。前回いただいたご意見をもとにいろいろ盛り込んだ計画も出てくると思いますので、本日も忌憚のないご意見を賜りまして、このような状況下の中ではありますが、充実した時間になればと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【相澤部長】

本日の策定委員会でございますが、金田委員の欠席の報告をいただいておりますので6名のご出席をいただいております。本策定委員会条例第5条第2項の規定によりまして会議が成立しておりますことをご報告申し上げたいと思います。それでは次第の3、協議に入りたいと思います。協議の進行につきましては吉村委員長にお願いを申し上げます。

【吉村議長】

それでは協議の「(1) 現行事業状況調査の結果報告について」資料1に基づきまして事務局より説明をお願いします。

【千葉課長】

それでは、資料1をお願いいたします。着座にて失礼いたします。

現行事業状況調査の結果報告についてでございます。資料1の第1期富谷市教育振興基本計画の取り組みの総括でございます。

内容に入る前に、資料2をご準備いただきたいと思います。資料2の31ページをお開きいただきたいと思います。こちらのほうに【2-2 基本目標・施策体系】の項目がございしますが、この項目ごとに説明させていただきますので、合わせてご覧いただきたいと思います。それでは、資料1に沿って進めて参りたいと思います。

【基本目標1 22世紀の礎を築く 富谷の学校教育】「施策1-1 幼児教育の充実」、教育活動においては、市内公立幼稚園においてユネスコスクールに加盟しました。

公立幼稚園の効率的な運営を目指し、富谷市立幼稚園運営審議会における答申の運営方針に基づき、富谷市立東向陽台幼稚園の民営化を図りました。

「施策1-2 魅力のある学校づくり」、市内すべての小中学校がユネスコスクールに加盟し、SDGsの観点から持続可能な社会の担い手の育成に向けて、地域の特性を生かした教育活動に取り組んでいます。

司書教諭並びに学校図書館指導員を中心とした学校図書館指導計画に基づく実践に取り組み、調べる学習などの探究的な学びの充実を図り、多くの児童生徒が、図書館を使った調べる学習コンクールに出品しました。

「施策1-3 学力の定着」、新学習指導要領に基づく主体的・対話的な深い学びの実践に向けて、学び合いの学習推進会議の開催など「学びの共同体」の理論に基づく研修会や実践を行い、「学び合い」の定着に向けて授業の検証・改善サイクルを重視しながら継続的に取り組んでいます。

令和2年度に、GIGAスクール構想に伴い整備した小中学校の児童生徒1人1台のタブレット端末配置が完了し、効果的に活用するため情報教育担当教諭を中心とした研修を行いながら、ICTの効果的な活用により児童生徒一人ひとりに適した授業を実践しています。

社会で力強く生きていくために必要な資質や能力を育てていく重要な役割を担うキャリア教育の視点でキャリア教育プログラムを作成しています。

「施策1-4 子どもに寄り添う特別支援教育の充実」、特別支援学級や通級による指導の充実を図るため、特別支援教育支援員を配置し、誰も取り残さない教育の実現に向けた学習機会の提供に努めています。

「施策1-5 心の豊かさと社会を生き抜く力の定着」、特別な教科としての道徳教育の充実に向け、いじめ問題などを自分事として捉え多面的・多角的に考え議論する道徳の授業に努めています。

グローバル社会に対応できる資質や能力を育成するため、ALTや英語等支援員といった人的配置とともに、スキルアップ研修などを実施し、英語教育並びに国際理解教育の充実を図っています。

黒川けやき教室と心のケアハウスを統合して教育支援センターを新たに開設し、相談業務から具体的な支援までを一体的に実施し、その実施においては、教育相談員や教育専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関が連携しながら、迅速かつ適切な相談に努めています。

東北初の不登校特例校となる富谷中学校西成田教室を開設し、教育支援センターをはじめ多様な学びの場が増えたことで、一人ひとりの最適な教育を提供しています。

「施策1-6 健やかな心身の健康づくり」、コロナ禍での多様な場面での行動制限があったものの、できる限り運動できる機会を提供しています。運動部活動については、ガイドラインに即した活動を実践し、多くの部活動で優秀な成績を収めており、また、東北大会以上に参加する場合の補助金要綱を改正し、経済的な負担軽減に努める措置を講じました。

食に関する計画に基づき、教科等横断的な視点での学習を実践し、学校給食を通して、栄養教諭による巡回指導などの取組を行っています。

東日本大震災をはじめ、地震や洪水などの自然災害が多発しており、日頃からの備えが重要であることから、各学校で独自の防災訓練や地域と連携した防災訓練を実施し、防災意識の高揚に努めています。

「施策1-7 地域・学校・家庭のつながりの強化」、学校経営の組織的・継続的な改善に向けて、学校評価を活用し保護者や地域住民等からの理解と参画に努めました。

「施策1-8 快適・安全・安心な教育環境の整備」、幼稚園では平成30年度、小中学校では令和元年度に各普通教室へのエアコン設置を行っています。また、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性

能を確保するため、学校施設長寿命化計画を策定し、学校施設の適切な維持管理に努めています。

【基本目標 2 循環型生涯学習社会の推進】「施策 2-1 生涯学習推進体制の充実」、生涯学習施設として整備検討を進めてきた「富谷市民図書館」は、特産品などを使ったスイーツを販売する「スイーツステーション」と、屋内型の子どもの遊び場との複合施設とし、基本方針の策定及び事業手法を決定し、基本設計の策定を進めています。

地域学校協働活動の実施にあたり、地域住民を交えた地域教育協議会を開催し、学校・行政・地域の連携を図っています。また、地域の子ども会などで活躍する新たなジュニアリーダーの育成に励んでいます。

「施策 2-2 公民館活動の充実」、社会教育指導員を中心に、講座受講生へのアンケート調査や、地域・世代のニーズを考慮し各種講座を開設し、講座等の運営にあたっては新型コロナウイルス感染症対策等に努めました。

【基本目標 3 芸術・文化の継承・創造、文化財の保護・活用】「施策3-1 芸術・文化の継承・創造」、地域住民や公民館サークルの発表や交流の場として、公民館まつりを開催するなど芸術・文化活動の活性化を図っています。

「施策 3-2 文化財の保護・活用」、平成 30 年 7 月に富谷市まちづくり産業交流プラザ内に民俗ギャラリーを移転オープンし、また令和 3 年には富谷宿観光交流ステーション内に内ヶ崎作三郎記念館を開館しています。

協働教育事業で県指定文化財「富谷田植踊り」の継承事業を行っています。

【基本目標 4 生涯スポーツの推進】「施策 4-1 生涯スポーツを楽しむ機会の充実」、市民ニーズを把握しながらトレーニング講習会を毎月開催したり、トレーニング機器を新たに設置したりしています。

仙台大学との連携協定を締結し、大学の支援により質の高い指導を受けられる体制を整えています。

「施策 4-2 指導体制の充実、競技スポーツの普及」、とみやスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)による各種スポーツ教室を実施しており、また、女子バレーボールチーム「リガール仙台」とホームタウンパートナー協定を結び、本市を会場にホームゲームを開催しています。

「施策 4-3 生涯スポーツを支える体制・環境の充実」、社会教育施設長寿命化計画を策定し、スポーツ施設、公民館をはじめとする社会教育施設の計画的な整備を図っています。

スポーツ推進計画を策定し、計画に沿ってスポーツ振興を進めています。

以上、資料 1 の説明になります、宜しくお願いします。

【吉村議長】

どうもありがとうございました。それでは、今の資料 1、それから資料 2 と対応しながらの現行事業状況調査の結果報告についてのご意見、ご質問があったらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私も一点、作りがよく分かっていないので、ずれて申し訳ないのですが、資料 1 の【施策 1-1 幼児教育の充実】の最初の 3 行の、教育活動においてはユネスコスクール云々とある、こちらの 3 行についてですけど、資料 2 を拝見しますと、【施策 1-2 魅力のある学校づくり】のマルの 3 番

目のところにこの文章が入っています。その対応関係を教えていただきたいのですが。

素直に私が読みますと、資料1の【施策1-1 幼児教育の充実】とあるのですが、幼稚園の中に小中学校の問題も入っていて、施策1-1の現状で確かにユネスコスクールの話は34ページにあるのですが、ここは新しい教育要領ということで、おそらく幼稚園の教育要領のことと思います。教育活動と入っているので、その点かなということで質問しました。例えば、教育要領ということで幼稚園に限定すればこれでいいと思います。教育活動となっていて、しかも同様の文章が39ページの【施策1-2 魅力のある学校づくり】にあって同じ文章になっているので、その点ご検討いただければと思います。

【相澤部長】

委員長からお話があったとおり、確かに幼稚園に特化した部分ではない記載となっています。ただ、幼稚園もユネスコスクールに加盟して、そういう活動をしているという部分も実際に状況としてありますので、ここは、幼稚園においてユネスコスクールの活動を行っていますという記載にして、小中学校は別の1-2の施策の方にあらためて分けて入れるということによろしいでしょうか。

【吉村議長】

はい、それでよろしいかと思います。悪くはなかったのですが、こちらの策との照らし合わせとなると同じ文があったものですから、いまのご提案のとおりでよろしいと思います。幼稚園教育でユネスコスクール、SDGs、非常に重要ですので。他にいかがでしょうか。また、後ほど検討してまいりますので、お気づきの点がありましたらどうぞその時によろしくお願いします。

それでは、次の協議に進みまして(2)中長期的な動向を踏まえた課題、教育の方向性の検討について、資料の2でこちらを踏まえて事務局より説明をよろしくお願いします。

【千葉課長】

それでは、引き続きご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

まず、資料2の29ページをご覧くださいと思います。第2章 教育基本方針、2-1教育理念と致しましては「学び合う、高め合う、尊びあう、富谷の教育 ～人生100年時代の教育環境を目指して～」といったものでございます。目指す人間像といたしましては「郷土を愛する心、地域や世界で活躍する力で、22世紀の富谷の礎をつくる人」となっております。

次に、30ページをご覧くださいと思います。中段の図にございます。教育の基本目標としましては、「学校教育」「生涯学習」「芸術文化」「スポーツ」の4つで構成されています。

次に、31ページをお願いします。先ほどもご覧いただきましたけれども2-2基本目標・施策体系としましては、本市の教育目標を具現化する重要な位置づけであるとともに、本計画策定にあたっての骨格部分であると考えてございます。

次に33ページ、お願いします。こちら2-3推進体制の(1)計画の推進方策につきましては庁内関係部署との情報共有、意識統一を図り連携強化をしております。また、市民、地域、関係団体への周知を図るとともに意見反映に努めます。

(2)計画の進行管理につきましては、法令に基づき外部有識者を交えて評価し本市ホームページで公表いたします。また、本計画の進捗状況については市教育委員会等で報告し、市ホームページで公表する予定としています。

次に、34ページをご覧いただきたいと思います。こちら上段に第3章、推進施策と致しましてここからは個別の施策体系となってございます。黒文字の記載につきましては第1期計画のものでございまして、赤文字の記載につきましては、第2期計画の策定にあたって担当部署から示されたものでございます。

この内容が94ページまで多岐にわたるものであるため、特にご意見をいただきたい施策について、資料3に抜粋させていただきました。

なお、推進施策の今後の作成にあたっては、第1期計画との文言の調整を図るとともに委員の皆さまよりご意見を頂戴したものを参考に内容を精査し、次回の策定委員会に提案させていただきたいと考えております。

それではこれより、各施策の説明をさせていただきます、どうぞよろしく願いいたします。

【今野課長】

学校教育課所管の方から簡単に説明させていただければと思います。

資料2が結構、量が多いので資料3と合わせて主なところを説明させていただければと思います。着座にて失礼致します。

まず、学校教育課所管分としましては資料2の31ページから32ページにかけての基本目標1の部分です。施策としては「施策1-1」から「1-8」までということで、そこが学校教育の分ということで捉えていただければと思います。

学校教育全般を網羅した内容となっておりますが、基本的な軸ということに関しましては当然ながら教育理念であります「学び合う、高め合う、尊びあう」こういったキーワードを軸に据えて学校教育活動を展開しているというところがございます。このことを踏まえまして、いま教育総務課長からも話がありましたが、資料3の特に関しましては本市としまして特徴的な事項、またこれから現行の計画を策定した時点、これでいきますと平成29年もしくはスタートの平成30年から大きく変化した教育環境の部分、あるいは今後大きく制度設計が変更になるであろうとそういった部分を中心に資料3にまとめたということでご理解いただければと思います。なので、前段お示ししました資料1の内容と重複する部分がございます。資料1につきましては、今年度までの取り組みとなっておりますので、その年度のところで重複することはご了承いただければと思います。

それでは、詳細のところ少しご説明いたします。資料3の一番上のところ、施策1-2を抜粋させていただいております。資料2でいきますと、39ページからというところですが、こちら本市としましては、まずは全ての幼稚園、小・中学校がユネスコスクールに加盟していると、この特徴を強みとして最大限生かしていくということは当然ながら必須事項ということで捉えております。ユネスコスクールとして、しっかりとSDGsの推進、またその推進力としてのESD教育こういったところの実効性をより高めていけるような計画のご助言をいただければと思っております。

続いて施策1-3でございます。資料2については42ページからになりますが、ここについては学力の定着ということで、大きな環境の変化としてはやはりGIGAスクール構想に伴う部分かと思っております。本市では他の地域よりいち早く一人1台タブレットを整備しました。今後は、第2期の計画について、この整備したICT環境をいかに効果的に活用して子ども一人ひとりに属した個別最適化のきめ細やかな教育を展開できるか、ここが非常に肝になってくるかなと考えてございます。

続いて、資料3でいきますと施策1-5です。資料2でいきますと52ページの心の豊かさと社

会を生き抜く力の定着という領域でございます。こちらに関しましては資料1にも記載しておりましたが、昨年度、令和3年度に黒川けやき教室、適応指導教室と心のケアハウス、こちらを統合拡充した形で教育支援センターを開設いたしました。また、今年度、今年度の4月に東北初ということで不登校特例校西成田教室も開設したというような大きな環境の変化がございます。様々な事情を抱える子どもたちへの一体的なフォロー体制、そういった部分の構築、またそういった子どもたちを中心とした新たな学びの場の整備、こういったところが大きく変わったところかなと、今後も多様な学びの機会を提供しながらそれぞれの子どもたちにフィットする場、またはフォロー体制を提供しながら最終的には社会的な自立にむけた支援、さらには誰一人取り残さない教育という市の理念に基づいた組織的、系統的な取り組みというものが求められるのかなと考えてございます。

最後に、施策1-6のところを抜粋させていただきました。資料でいきますと59ページになります。既に、メディア等でご承知だと思いますが、中学校の運動部活動の地域移行というものが有識者会議で6月に提言が出されました。また先日、文化部活動についても同様に地域移行の提言が出されたというところがございます。それを受けまして文科省のほうでは今年の年内中を目標にその方針というものが提示されるという情報も入っておりますが、いずれにせよこれまでにない大きな変革という部分があります。この大きな流れにしっかりと対応していくためには、教育委員会としても学校教育課と生涯学習課、さらには地域、地域団体との対話を重ねながら本市の特性、地域性に属した制度設計、運用というものが求められるのかなと思っておりますので、こちらの方も新たな計画の方にはしっかりと盛り込んでいきたいと思っております。資料3には記載はございませんが、やはり本市の特徴であります学び合う教師集団の確立、また学び合い授業の定着、さらには学校図書館を軸にした探究型学習、課題解決型学習の推進、こういったところも協議の視点の一つとして加えていただければと思っておりますし、多様化するいろんな教育ニーズに対応するには今後、官民共同といった視点が非常に重要なところだと思いますので、こういった視点のもとにいろいろご助言、ご指導いただければと思っております、以上でございます。

【菊地課長】

続けて生涯学習課のほうも説明に入りたいと思います。

資料の31ページから32ページ、ここが今回の体系のところになってくるのですが、生涯学習、非常に範囲が広く、生涯学習、文化財、体育振興、また公民館、図書館というような分野が管轄となっております。そのなかで31ページ、目標1における1-2の3のところは学校図書館を活用した読書習慣の形成とございます。これは学校教育課との連携により行っていく図書のほうで進めていく事業でございます。

続いて、【施策1-5心の豊かさと社会と生き抜く力の定着】の6、ふるさと「富谷」に誇りと愛着を育む教育の推進、これは文化財のほうでの田植え踊りというふうな部分となります。これまで富谷小学校のクラブ活動で行っていたのですが、コロナの影響もあり、なかなか活動が難しくなりました。昨年度からは第4学年の学校の授業として進めているところでございます。

次に、32ページにまいります。こちらが学校の分野になりますが、【施策1-7 地域・学校・家庭のつながりの強化】の中の1、2、3となりますが、地域学校共同活動という分野でございます。

施策1-8の2、学校施設の有効利用と安全管理の徹底とございますが、こちらは体育の部分でございます。学校開放の体育施設、校庭の貸出しの分野となります。

その次が基本目標2、循環型生涯学習社会の推進となります。ここでは生涯学習の部分、公民館の部分、基本目標3の芸術・文化の継承に関しましては文化財等々となります。

最後に、基本目標4の生涯スポーツということで体育振興となります。この中で抜粋したのが資料3になります。

資料3の6をご覧ください。6に関しては図書館の分野を抜粋しております。図書館の方は現在、こちらに書いておりますとおり、スイーツステーション、児童屋内遊戯場を含めました複合施設を準備しているところでございます。現在は、図書館整備基本計画で作ってございまして、今後プロポーザルを行っていくこととなっております。現状では令和7年を目途に進めておりますので、今回の計画、5年・6年・7年までは作るまで、7年・8年・9年は実際の運用という部分で想定しながらこの計画を策定していくつもりでございます。このあたりが右側の5年間の推進施策の方に記載しておりますが、センター館となるのがこの施設、あとは公民館における分館を図書館として残しながらネットワーク型で進めていくと考えているところでございます。

その下の7番になりますが、これは地域学校活動の部分となります。さきほど学校の基本目標1あたりの学校との絡みは出しましたが、今回ここで示しているのは地域での動きとなります。

74ページから詳細に書いておりますが、要は学校活動を支えていく地域の部分での充実を図っていくという部分になりますので、右の5年間の推進施策のところにも書いてございますが、支援という立ち位置から連携共同ということで学校と地域、そういった部分での繋ぐ取り組みを進めていくという趣旨で記入しているものでございます。私の方は以上となります。

【吉村議長】

ありがとうございます。それでは資料は多様にわたるものでございますので学校教育、生涯教育それぞれのポイントを説明していただきました。時間が大変限られていますので、今後の進め方ですが、今ご説明があったものの特にその中の資料3に挙げてある7つの施策についての検討をお願いしたいということです。現状がございまして、今後の課題、5年間の推進施策となっております。特に、今後の課題、そして5年間の施策についてご意見をいただければと思っております。それではここに挙げてある1番から順に見ていきますが、最初の1番の【施策1-2 魅力ある学校づくり】ということで、こちらはユネスコスクールに加盟しSDGs、そしてESD、そこに力を入れていくということですが、こちらについて何かご意見ありますでしょうか。高橋委員いかがでしょうか。

【高橋副委員長】

骨子がユネスコスクール、SDGsの観点からということで、学校現場としては最適かなと思えました。

【吉村議長】

はい、ではそういう形で進めていただきたいということでございました。他の委員はいかがでしょうか。では、まず一通りいってからご意見頂戴したいと思います。次の2の【施策1-3 学力の定着】、富谷市は県に先駆けて一人1台タブレットということで、宮城県では先端ということでございます。これから個別最適化という時にICT活用が非常に重要になってきます。その点についてご意見頂きたいと思っております。ここはICTに非常に詳しい木村委員、いかがでしょうか。

【木村委員】

はい、やはり富谷市が一番先にICT支援をやられていて、今、学校現場を回らせていただいているのですが、テーマとしては情報モラル。要は、渡したは良いけど、夜までYouTubeを見るとか、誹謗中傷するとか、それが問題になって、県教委でも情報モラルの特別動画を作り、普及させていこうという動きです。整備した後は制限するというよりは情報モラルをきちんと伝えて、誹謗中傷しないとか、正しい使い方を教えるとか、取り上げるのではなく活用をどうしていくのかということをお教えしていくことを是非やってほしいと思います。

【吉村議長】

貴重なご意見ありがとうございました、確かに木村委員のご意見を伺っておりまして、コロナ対応というところで、一人1台タブレットは非常に重要です。こういう流れですから、止めろというのはおかしい話で、どう上手く付き合うかということです。一方で家に持ち帰って使うのは良いですが、木村委員からありましたように、YouTubeとかゲームにはまってしまって、今まで結構、読書していた習慣が無くなってしまったとか、深刻なのは誹謗中傷で、最近も侮辱罪なんてありましたけれども、東京か神奈川で、小学生が心無い言葉で自死した事件がありました。おそらくやる方に悪気は無いのですが、受け止める方は大変傷つくことです。富谷市も大変力を入れている道徳教育と合わせながら、今の木村委員の貴重な意見、情報モラルを入れていただけたらと思っております。他に、GIGAスクールについて学校現場ということで、高橋委員をお願いします。

【高橋副委員長】

GIGAスクール構想が立ち上がった時には、タブレットを使いましょうということで、色々推奨されてきたのですが、質だけではなく量もある程度見直さないといけない時期なのかなと思えました。使えばいいと言っても健康を害したり、図書館教育とも抱き合わせになりますが、ペーパーできちんと物を読み取る力というのも大事で、バランスが大事かなと思えました。たくさんの情報量と、深く思考する時間との両立をきちんととっていかないと、確かな学力の定着には繋がらないのではないかなと思えました。なので、今後の課題というところですが、スタートは多分この状態だと思うのですが、これからは更に一步進んだ課題が想定されるのではないかなと。情報モラルや使用頻度が適切なのかとか、そういう場面が問われてくるのかと思えました。

【吉村議長】

学校現場の実態という事で、ありがとうございました。幼児もタブレットだけではなくスマホもやっています。私事ながらオンラインで仕事を進めなくてはいけなくて、かなり視力が落ちてきたと思っております。高橋委員がおっしゃったように便利な反面、人間の身体の作りは変わらないですし、人によってはブルーライトが目によろしくないという事もありますので、そういう意味で富谷市は先端であるからこそ、いろんな課題が出ていますので、県に先駆けて課題に取り組んでいただければと思います。お子さんの家庭での実態に詳しい大場委員いかがでしょうか。

【大場委員】

うちも濃厚接触者に該当してしまった時に活用させていただきました。オンラインで教室の風景を見ながら、学校に来ていない子の顔も表示され、授業の間はそこに集中するので、授業時間と同

じように画面を見ているという形になります。iPadがあったことで参加でき、ただ家にいるのではなく授業も受けられたので良かったと思いました。たまに雑音が入って先生が何を言っているのか聞こえないとか、質問に上手く入っていけないとかといった使い方とか、先の話になりますが、質問が入力できる機能などがあってもいいのかなと、子どもの話を聞いて思いました。でも、今までであれば、元気だけれど、ずっと家にいて時間を持て余していたのが、友達の顔も見られるし先生の声も聞けるしという事で良かったです。

【吉村議長】

ありがとうございました。今、大場委員がおっしゃったように、双方向性というコミュニケーションツールとして非常に重要なのですが、一方で諸刃の剣で木村委員がおっしゃったようなモラルの問題もあります。また、高橋委員から出たアナログとデジタルを使い分けるということも重要になってきますので、富谷市ならではの課題と施策を出していただけると素晴らしいと思います。

それでは施策の1-5にまいります。こちらは二つございまして、一つは教育支援センターを開設し、そこで支援している。もう一つ、ICTに加えて不登校支援ということで宮城県ならず東北初の不登校特例校西成田教室の開設ということで、これも非常に注目を浴びているところでございます。ここについてご意見いただければと思います。不登校ということは、その後なかなか社会的自立を妨げるという事で、新たな引きこもり問題ですとか大きなことにも関わってきておりますので、ここはそうした福祉子育て支援専門の日諸委員いかがでしょうか。

【日諸委員】

不登校の子を引きこもりにしないということが一番大事なことだと思います。たまたまその学校に合わなくて、行きたくないという事が起きた時に、その子の人生が終わりではないので、今後学ぶことと人と関わることを投げ出してしまわないよう、その子どもにいろんな複数のコミュニティを与えて、家庭とか学校とかそのほかにも受け入れてくれるその子の居場所や環境を複数作ってあげることが非常に重要なのかなと思うので、富谷市はいろんな施設があるのでとても良いと思っています。

とにかく、引きこもらずに、学校に行けなくてもたまたまその子は地域でその学校に行かなくてはいけないというだけで、でもそこに行けないという事で、その子は何も選べていないのだから、これからいろんな人生で、いろんなことを自分で選択していくチャンスがあるわけだから、自分を強く持てるような教育を富谷でしてほしいなと思います。

【吉村議長】

日諸委員、コミュニティということで、専門の施策2-1のところでもたまたまご意見賜りますけれども、引きこもりしないよう学校以外の多様な居場所ということで、貴重なご意見ありがとうございました。社会的な地域での居場所づくりという事で富田委員いかがでしょうか。

【富田委員】

個人的な活動の中で、西成田教室の子ども、中学生と先生と接する機会がありました。西成田で環境保全の活動をやっている、そこで皆さんが授業の一環で来ているときに中学生の様子も見まし

たが、私はどちらかという先生の方を見てしまって。始まったばかりで色々悩んでいらっしやること多いだろうなと気になっています。先ほど今野課長が「学び合う教師集団」とありましたけれども、子どもたちのケアは勿論ですが、先生たちに対しても「学び合う」というだけでなく「ケアし合う」ような施策、課題があれば。先生は強くてパーフェクトだから大丈夫というのであれば良いのですが、やっぱりケアも。直接話して何が大変か聞いたわけではないのですが、悩んでいることもたくさんあるだろうと思うと、先生に対する課題を見つけ、それに対し対策をしていくということも必要なかと思いました。3番、4番もしくは2番の方にも入ってくるかもしれませんが、そういうところに案が入れられたら良いなと思いました。

【吉村議長】

貴重なご意見をありがとうございました。通常の学校の学習指導も大変ですが、富田委員がおっしゃった不登校の児童生徒との関わりは大変な配慮が必要です。関わる側の教師にも相当な負担があるのは確かですので、今、ケアという言葉ができましたけれども、もちろん指導、力量アップも大事ですが、一方で大変な子どもの苦しみを背負うわけで、カウンセラーの方から、ある種つらいものを浴びて自分もつらくなるという事を伺ったことがあります。是非、富田委員からありました、指導にあたる先生方のケア、背負い込まなくていいよと、ほっとできるようなそうした関係というか、ちょっと私もアイデアが浮かばないですが、是非ご配慮いただけるとありがたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

【高橋副委員長】

学校といたしましても、不登校一人ひとりの抱えている問題というのはそれぞれなので、5人いれば5ケース、全く違うものです。先ほど、ありがたい言葉で先生方のケアということで、うちの学校でやっている内容としては、ケース会議をもっています。ソーシャルワーカー、カウンセラー、行政を交えて各学校で行っているところです。例えば、西成田教室でも、うちの学校から行っている子たちがいるので、地域は成田中学校なので、そういう所と連携を図りながら5年間の推進施策の中にある連携体制の更なる強化というところが大事なのかなと、この文章を見た時にそのとおりだなと。具体的に体制をどのように整えていくのかというのは、これからもやっていかななくてはいけないことだと思います。

【吉村議長】

ありがとうございました。それではいろいろ繋がってくるので、また一通り、七つ終わりましたら委員にご意見賜りたいと思います。

5の部活動については教員のブラック企業化を解消しようということで、ようやく文科省もメスを入れたなという感じですが、特に中学校が深刻だと思うのですが、是非高橋委員から施策の1-6についてお願いします。

【高橋副委員長】

正直、文科省から出ていて県内の中総体事務局の方ともお話ししたのですが、まだ進んでいないというか、まだ考えているところで具体的なことはこれから出てくるのかなというところでした。我々もこれからどのようにしていかななくてはいけないか考え中で、これ以上は難しいという所です。

ただ、運動部だけでなく文化部もと考えた時に、部活動というカテゴリーでもいいのかなど、「健やかな」となっているのですが、心身となっておりますので芸術も含めて部活動という事でもいいのかなどと思いました。

【吉村議長】

ありがとうございました。高橋委員がおっしゃったように、運動部だけではなく、富谷は比較的金管バンドが盛んですが、吹奏楽も音楽部も部活以上にすごいと聞くことがあります。学校だけに過度に負担を強いることなく、学校だけでなく生涯を通した運動や芸術を楽しめるようにということで生涯学習との体系という事で繋がりを作っていただくといいと思います。部活動について保護者の立場で大場委員一言、ご意見賜れば。

【大場委員】

うちは野球をやっています、ただ学校の部活には所属しておらず、外部でしているんですが、野球とかでいうと地域にいっぱいチームがあって、同じ学校に通っている子でも違うチームに所属しているとか、そういう場合に、例えばそれが部活動となった時に、中総体はどうなるのか、試合もそれぞれ違う日付、日程での大会があるとなった時に、学校とどういうふうに連絡をとっていくのかなというのは保護者としては気になっていた点ではあります。

【吉村議長】

学校外のスポーツとなると、完全に学校の教育とは距離ができていますので、学校教育と学校外のそうした活動との関係ですね。ただ、トータルで生涯学習ということになってきますので、整理していけばいいし、富谷市の場合、スポーツにも生涯学習にも力を入れていきますので、そこの繋がりを考えていけばいいかなと思います。ありがとうございました。

ここまで学校教育関係で、次が生涯学習ということです。施策2-1ということで、性質が異なる場所なので、まず図書館からいきたいと思います。学校教育でも富谷市の場合では探究活動、調べ学習ということで図書館利用を推進しておりますので、図書館読書指導ということでこのところでご意見頂戴したいと思います。

高橋委員から先ほど読書が非常に重要だという意見がありました。残念ながら読書調査でみますと、小学校5年生までは結構本を読むのですが、中学校になると読まなくなり、うちの学生に聞いても高校時代は受験勉強とか部活で忙しくてほとんど本を読んでないとか、ある読書調査によると、高校生でも1冊も本を読んだことが無いというのが、何十パーセントと、かなりいます。高橋委員がおっしゃったように本を読む事は大事だと思いますので、ぜひご意見を頂戴したいのですが。

【高橋副委員長】

実は、図書館関係の会議に以前参加したことがあって、おっしゃるとおり、小さい時に本に親しんでいる子たちは継続的に本を読むというデータがあります。発達段階に応じて図書館の利用はしていかななくてはいけないのだろうなと考えた時に、キーワードは小学校での図書館の使い方かなというふうに思いました。調べ学習といった時に図書館で中学生がこれから調べるようになるのかなと考えた時に、GIGAスクール構想とかで中学校では結構パソコンを使ったり、iPadを使ってホームページにアクセスしたりして情報をもらうということをやっております。

ただ、図書館の良さもやはりあると思います。ただ、利便性で考えた時に、ぱっと知りたい時は、調べてしまうのかなと考えていました。大学の論文を書いたりするときに必要な資料は、図書館とかいろんなところから集めてきますよね。そういう仕組みを作っていけば、中学校だけでなく大学でも使えるものとなっていくのかなと。調べるアイテムをパソコンとか、図書館の大きな過去のデータとか、私も国会図書館とかに行って教科書とかを調べることがあるのですが、ネットでは出ないので、やはり行かなくては。国会図書館まで行かないと無いというのがあるので、図書館はやはり大事だとその時感じました。

それを富谷のここでの複合施設だけではなく、それぞれの図書館のデータベースが分かるというのがすごく画期的だと思います。そういうものをもっと利用して、場合によっては小学校同士もこういう図鑑が欲しいな、知りたいなというのが、例えば成田東小学校にはないけど成田小学校にはあるというのが分かれば、それを貸し出しできるとか見れるとかということであれば、図書館にかけるお金ももっと有効活用できるのではないかな。特に図鑑などは高いので、小説とか9類といわれているものとかは逆に賞味期限があるので、ブームがあると思うのですが、ブームじゃないものは共有していくことも、これからの調べ学習には有効なのではないのかなと思いました。

【吉村議長】

専門的で具体的なお提案をいただきありがとうございます。

それでは最後の施策2-1の「生涯学習推進体制の充実」といったところで、多様な地域コミュニティ、そこで活躍の場を作っていくということですが、ここについては是非、日諸委員からご意見を賜りたいのですが、よろしく願いいたします。

【日諸委員】

地域学校教育の充実ということで、中学生、高校生を交えながら活動というのも一つかなと思っています。個人的な話なのですが、娘が大学の時に、地元の塩釜の女子高生を地域活動に取り込んだゼミをやりました。具体的には地場産品を活用し、塩釜の名物を考案し、PRするというイベントで、東北大学で有名になったのですが、その時にその活動に市役所、市長、地元の農家とか水産加工業の会社にも協力していただき、活動に関わってくれた女子高生が、その活動を通じて大いに郷土愛とか地元の地域振興を学びながら、次のステップで大学を選ぶ時に、それを目指したり、地元就職する時にそれを望んだりという事を聞いたことがありました。

富谷でも蜂蜜など色々な事をやっているのでも、そういうものを活用しながら子どもを巻き込んで地域振興をやると、富谷の宝が、地域から社会に出て行って、またその宝が地域に戻ってくるのではないかと思います。確認したかったのですが、目指す人間像（資料2のP30）が「地域や世界で活躍する」とは、これは世界ですか、社会ですか。世界ですね、わかりました。地域から世界とは大きいなと思いました。

【吉村議長】

ローカルとグローバルの関係とってグローバルという流行り言葉があるのですが、目指すところは、日諸委員がおっしゃったとおり、地域の人口減少、まだ富谷は増えているところですが、特に東北地方、隣の山形県はすごい勢いで人口が減っています。私が新庄小学校という最上地域の中心の学校の研究に呼ばれたことがあります。なるべく一度は外の世界を見てみる、地域に愛着を持つ

ようにしようと、最上の拠点の新庄北高校という公立の高校では、できれば大学に進学し、広い世界、それこそ仙台、東京を見た上で新庄、最上に戻ってきてという事を意識させるようにしているそうです。今、高校教育がものすごく激変を求められていて、いわゆる受験勉強ではなく、総合的な探究の時間が入りました。日諸委員がおっしゃったように、残念ながら日本の高校生は社会の中での自分の役割意識が低いし、それがひいては投票率の問題になってもいて、政治への意識も低くなっています。逆に地域社会を自分たちで作る、より良い方向に変えていく、するとおのずと投票や政治への関わり方が変わっていくということで、新庄北高校は、日諸委員がおっしゃったような、新庄の特産、地域の強みなどをしっかり調べ、地理や教科の学習に生かします。ただ数学をやってもしょうがないので、今はエビデンスの時代なので地域の統計を処理する、だから数学をやる価値があるとかね。あるいは最上は雪深いところですが、理科の地学とか気象の勉強をして自然を克服する手立てを考える。富谷もそういう形で、管轄が違うかと思いますが、富谷高校は、そういう形でもっと地域に根ざした活動で、生徒が富谷の中学校の生徒と地域を盛り上げていただけたらいいかなと思いました。

大変貴重なご意見ありがとうございました。日諸委員がおっしゃった、地域と世界と繋がり、飛躍が大きいかなとは思いますが、理念として気持ちは良くわかります。どうもありがとうございました。

それでは一通り見ましたので、言い残したことがあれば全体を通してご意見頂戴したいと、あるいはここで触れきれないところがあったので是非こういったところは富谷の教育として力を入れてほしいということでご意見頂戴したいのですが、では、木村委員からよろしくお願いします。

【木村委員】

学校と地域の繋がりをテーマに、コミュニティスクールを目指すのか目指さないのかここに載っていないので分からない。仙台市とかは全部コミュニティスクールにしたのですが、富谷市はまず、目指すのかやらないのか明確に。学校に地域の人が入ってくるからこそ地域の人と繋がりが出てきますし、地域コーディネーターが繋ぐのですけれど、誰が地域コーディネーターか分からない。うちの子も顔が分からないというのがあるので、そういう繋ぐ人が分からないと繋がりが無い。顔が見える関係性を作っていただけるといいかな。そういう意味ではコミュニティスクールの推進というのは一歩なのかなと思いました。

【吉村議長】

ありがとうございました。場合によっては、ユネスコスクールと少しコミュニティスクールの接合とかも一つ手かなと思います。SDGs、ESDというあたりは、これはユネスコが世界的な広がりになってしまうけど、土台は木村委員がおっしゃったコミュニティですので、先ほどから日諸委員がおっしゃるところの本質をついたところなので、ユネスコとコミュニティですよね。その関係をどうするのかというところで、魅力ある学校づくり、それから地域コミュニティ、学校と地域コミュニティの繋がりについてご検討いただければなど。どうも貴重なご意見ありがとうございました。

それでは続きまして富田委員いかがでしょうか。

【富田委員】

6番で一つ確認したいのですが、推進施策の中に「施設整備上の課題解決に取り組む」とありますが、これはスイーツステーション・児童屋内遊戯施設など複合的なものに対しての課題とっていらっしやいましたか。もし、教育の中でスイーツステーションという部分を含めた問題解決をするとなると結構大きな課題というか、市の施設としてみた時にどう解決していくかということで、ここに生涯学習の課題としてしまうのはすごく大きな問題になってしまうような気がしました。私は遊戯施設と図書館の結びつきって面白そうだと思っているので、子どもが成長して行って図書館に、みたいなのはありだなと思っていて、スイーツステーションは結構ビジネス寄りだと思うので、それを呼び水的にしましようという事で複合施設になっていると思うのですが。この解決は無くてもいいのではないかと思いましたので、見直してもいいのではと思ったところでした。

【吉村議長】

スイーツステーションって存じ上げないのですが、もし先ほど日諸委員から出た地域の誇りってことで、スイーツステーションが子供たちに郷土愛を植え付けるようなものだったら座りは良いと思うんですけどね。そうでないのであれば、今、富田委員のいう、どちらかというビジネス寄りというのは違和感があります。子供たちの郷土愛を育てるということでしたら、そういう位置づけにしてもらえればと思います。ありがとうございました。日諸委員いかがでしょうか。

【日諸委員】

先ほど先生が私の意見に補足して言って下さった時に、なるほどと思った事がもう一つあり、グローバルな人材には、世界の多様な価値観に自分の意見をきちんと言えて、説得力を持って発信できる人材が必要だと思うんです。そういう中で富谷の子どもたちが自分に自信と誇りをもって、今みんなが一生懸命やっている郷土愛につながって、地域の歴史とか特徴を分かった上で地域の風土や、人を愛する心をはぐくんで、子どもたちがそういった教育を受けることがユネスコスクールの理念にも繋がって実現していくのではないのかと思いました。

ここに書いてある文章ですごいと思ったのが、46ページの「誰一人取り残すことなく、児童生徒一人ひとりに即した個別最適化の教育を提供し」というところです。こんなことが出来たら本当に理想的だなと思いました。今まではどちらかという苦手無くすという教育をしてきたと思いますが、これからは各々が、子どもは発達段階が違うと思うのですが、それが小さくなれば小さくなっただけ差が出ているのですが、いつまでに何をやらないとダメという評価ではなく、その子の得意なところを伸ばし、個性を活かすプログラムを現実にできて、丁寧に個別化して提供していく仕組みができれば、本当に富谷の教育は素晴らしいなど。この一文が本当に現実化したら素晴らしいし、そうなれば良いと思いました。

【吉村議長】

ありがとうございました。是非、情報活用、大きな課題ですが、最終的には地域、そして自分に誇りを持てる、方向性を見いだせるといいなと思いました。どうもありがとうございました。

それでは大場委員いかがでしょうか。

【大場委員】

図書館の需要について、子どもがどうしたら図書館に行きたくなるのかなと思った時に、夏休みだと暑いから今日はもうこれでバイバイしようかって感じで、すぐ切り上げたりすることがあるんです。そういう時に図書館涼しいから宿題持って行ってみようかってなるような、夏休み前に「富谷市にはこれぐらいの図書館があります」「何時から何時まで開いています」というアナウンスがあったら、今日はここの図書館が開いてるから友達と宿題やりにいってくるとかいう話が自然と子どもたちから出てくるのかなと何となく、親として思いました。

【吉村議長】

はい、是非、子どもたちが図書館に来てくれるように情報提供は大事だと思います。ありがとうございました。それでは高橋委員をお願いします。

【高橋副委員長】

富谷市の教育のなかに「学び合い」という言葉が入っているのですが「合う」という事で、一人ではできない、人であったり物であったり、そういうところから「学び合う」というところが、私は富谷に来てすごくいいなと思いました。学びってというのは成長とともにあると思うのですが、やっぱり一人では出来ない。それをきちんと富谷市が抑えて骨子の一つとしてやっていくんだということは、とても子どもたちの成長に有効だし、生きていく上でも大事な。この中にどんな子どもたちを育てていきたいのかという内容がありましたけど、一つ一つの積み重ねが大事なのかなと。グローバルという言葉も言葉自体ドキッとすることもかもしれないけれど、着実に子どもたちはそういう意味では話し合いをしたり、誰かと関わって学んでみたりというような事を行っているのではないかなと私は思っているので、これからも基礎基本をきちんとやって進めていければなと今回、この骨子をみて思いました。

【吉村議長】

はい、まだまだ足りないところあるかと思いますが、たいへん貴重な意見をいただきました。

【及川教育長】

貴重なご意見をいただきありがとうございました。今お話しいただいたことを私たちも課題として捉えている部分もございました。まず、コミュニティスクールについて、私もこれをみてレクの中で触れていなかったということで課題として捉えています。調査研究し前に進めなくてはいけないということでやっておりますので、今後方向性は示せるのかと思います。それから、ありがたかったのが教職員のケアということで先ほど富田委員からいただきましたが、高橋委員からもあったように職員を一人にしないと同時に、このたび西成田校ができたことも含めて、医療関係の発達外来の先生、あるいは医療ソーシャルワーカーが西成田の保護者面談にご協力いただいたりということで、そういう先生方のサポートもできる体制を取り始めております。そして何より、地域の方々が入っていただいていることが教職員のケアにもなっているということで、すごく教職員のストレスが非常に大きいのでそこはまた考えていかななくてはならないところです。

部活動の地域移行については課題が山積みです。どこの自治体でも困ってどのように進めるか、中総体のことも含め課題は山積みで、悩みながらみんなで進んでいかななくてはならないと。同時に

金管はマーチングエコーズや連携協定している大学の力を借りながら、現場の負担を減らす方向で今進んでいるところです。

高校生が参画するという事で、富谷高校もだいぶ進んで地域に貢献してくださっているの、そのへんは充実させていければなと思っております。貴重なご意見でしたのでありがたいと思っております。

【吉村議長】

ありがとうございました。それでは、協議はこれで終わります、次第4、報告、アンケート調査票ということで、皆さんのお手元にアンケート調査票を配っております。大変お忙しいところご意見頂きありがとうございました。その頂戴したご意見を基に事務局で修正を重ねたものを最終案としてこのようにまとめました。これを使いまして8月にアンケート調査を実施いたします。こちらについて事務局から補足説明がございますのでよろしく申し上げます。

【坂爪補佐】

アンケート調査票について補足させていただきます。着座にて失礼させていただきます。

委員の皆さまには大変お忙しい中、アンケートについてご意見頂戴いただきましてありがとうございました。皆さまからいただきましたご意見については、事務局で検討を加え、その中に反映させて集約させたものを最終案として吉村委員長にご確認いただいているところでございます。

皆さまには本日、最終のものと、どこをどのように直したのか分かるものとお配りしています。皆様から前回ご意見頂戴しましたWebによるアンケートの実施については市民アンケートのほうで実施することとしております。

また、いただきましたご意見の内容につきましては、主なものとして誤字脱字の修正ですとか文言の統一、「市の」、「富谷市の」など混在しているところについては「富谷市」ということで統一することとしております。また、項目の追加ですとか選択肢の追加、分かりやすい表現に変えたほうが分かりやすいというところもありまして、そういったところのご指摘などについて表現や説明を変えたり追加をしたりなどしております。

コメントの入っているほうでご説明をさせていただきます。

まず、市民アンケートにつきましては表紙のところWebによるアンケートのほうを実施するということで、二次元コード等を入れております。開いていただきまして、3ページ、4ページのところで赤く示してあるところで、「成果を適切に生かす」、この文字が以前は「人生の生」、「生きる」という文字だったのですが、こちらは「活動の活」の方が適切だというご指摘などもございまして訂正を加えております。

また、問7や問8の「特にしていない（理由）」のところ、理由の方についても伺うと良いでしょうということでご指摘がありましたので、追加をしております。4ページの間8の選択肢の8と10ですね、8のところではカッコしてどういったものがあるかということが分かるような表記でZoomやウェビナーなど表現を加えております。

また、10番のところに町内会館での趣味活動となっておりますが、こちらについてはもともと「地区での会館での趣味活動」となっております、これよりは普段利用されている「町内会館」の方が分かりやすいという事で表記が変わっております。

アンケート、7ページのほうご覧ください。問17の「富谷市の」というところで、別のところで

「市の」という事で混在しておりましたので「富谷市の」ですべて表現を統一しております。

また、「文化的環境（鑑賞機会・・・）」このカッコ書きの部分が、以前は「満足していますか」というところの最後の文末についていたのですが、文化的環境のあとに入った方が分かりやすいだろうということで、ご指摘がありましたので修正しております。

11ページ、12ページご覧ください。「どこで運動やスポーツを行っていますか」11ページの④のところ公民館を使っている方が多いということでこちらに公民館を付け加えております。12ページの※のところ「総合型地域スポーツクラブとは」というところで、前回の説明が分かりづらいというご意見いただきましたので、スポーツ庁のホームページに掲載されているものが大変分かりやすかったのでこちらの方に変えております。

また、次の13ページでは、大項目として5を追加しました。「学校と地域の連携」他の項目に入る内容というよりは新たな内容ということで付け加えております。

問30「地域に開かれた学校づくり」のところで、もともとコミュニティスクールと入っていたんですが、富谷市のほうでこの辺の取り組みが今後ということもあり、また、コミュニティスクールという言葉がまだ馴染んでいないということで市民アンケートにするとときはここに、地域に開かれた学校づくりというふうに書いております。

問31の一番下の付問のところは、PTA活動について前回の会議のところでPTAの参加が低くて、どうしたら参加してくれるものだろうかといったお話が委員のほうからありました。こちらの方を質問に付け加えています。

児童生徒アンケートの2ページ、3ページをご覧ください。2ページの付問②「学校が楽しくないと思ったのはどんな時ですか」1番の項目のところで「友だちとけんかした時」というふうに、前回「うまくいかない時」と表現しておりました。これについて意味合いがもう少しはっきりした方がいいのではという事でご指摘がありましたので、「けんかした時」というふうにもう少し分かりやすい表現に変えています。また、中学生の場合、部活動が辛いということもあるのではという事で、選択肢に加えたほうが良いのではないかとご指摘がありましたので加えております。

また、3ページ問6の6番で「社会で役に立つ人になりたいから」という表現、前回、「世の中で」というふうになっておりましたが、ここもわかりやすく「社会で」の方がいいのではないかとご事で「社会で」というふうに変えております。

問7の3番、「全体的な授業の取り組み方」というふうなところで、選択肢があるのですけれども、前回この下のアとイの項目は無く、「全体的な授業の取り組み方」だと、やや抽象的な言い方でわかりづらいのではないかとご事で、さらにその下に下位項目としてアとイを付け加えた方がいいのではとご指摘がございました。といったところで多少付け加えたり、修正などをしております。

同じように他のところについても修正を加えておりますのでご覧いただければと思います。

関係団体のアンケートにつきまして幼稚園の父母の会の方にもお願いする予定だったのですけれども、コロナの関係で休会していることと代表者が不在であるということだったので、今回のアンケートについては幼稚園の父母の会の方は、今回は見送ることとさせて頂きました。

今後、8月上旬から中旬にかけてアンケート印刷と配布の準備を早速行いまして、8月下旬からアンケートの配布を実施しまして、集計や分析の方を実施していく予定です。以上となります。

【吉村議長】

はい、ありがとうございます。委員の皆さまのご意見を反映して、今ご説明あったように修正

していただいてこれで実施するという事でございます。それでは、次第の5その他ですけれども何かありますでしょうか。

【高橋主幹】

次回、第3回策定委員会の予定でございます。先日、日程調整のご回答いただきましてありがとうございました。こちらで調整いたしまして、10月6日、木曜日の午後3時より開催したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、開催通知につきましては後日、送らせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

もう1点ございまして、本日委員の皆さまに第1回策定委員会の会議録をお配りさせていただいております。内容について、誤字脱字ですとか表現が違うといったところがございますたら、会議録の方に朱書きで対応いただき、8月10日、水曜日まで返信用封筒で郵送いただけたらと思います。なお特段修正が無い場合は返信不要です。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【吉村議長】

ありがとうございました。いろいろ貴重なご意見賜りましたので時間が延びてしまいましたけれども、以上で終了いたします。それでは事務局へお戻しいたします。

【相澤部長】

吉村委員長、本当にありがとうございました。委員の皆さまも貴重なご意見ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして高橋副委員長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

【高橋副委員長】

話すべきものは話してしまったかなというところで、中学校のほうのお話をさせていただくと、夏休みに入り中総体がありました。今、子ども達は暑い中、熱中症対策を取りながら、駅伝の練習をしたり県大会や東北大会に向けての準備をしたりしているところです。私が富谷市に来て感じたことは、本当に子どもたちはエネルギーだなど感じております。暑くても真っ黒になりながら一生懸命ボールを追っている姿、そして大会に参加して感じたのは、監督からの話が終わった後に子ども同士で、試合の進行について、お互いにあそこはこうした方がいいのではないかと、すごい頑張ってるよとかという声が聞こえてきて、これがやはり「自分たちの試合だ」と理解した時の姿なのだと思います。私も中学校の教員生活、長いのですが、そういうふうに分たちでゲームを作ったり、作戦を考えられたりする子どもたちを初めて見られて感動しました。

これから策定する内容も、これが実現できれば、そういう子どもたちがもっと増えて子どもたちの可能性が伸ばせるのかなと感じております。本当に微力なのですが、一生懸命頑張りたいとあらためて感じました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【相澤部長】

以上をもちまして、第2期富谷市教育振興基本計画第2回策定委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。ありがとうございました。